

報道関係機関と地球研との懇談会

2018年 5月15日(火) 14:00~15:15

京都烏丸コンベンションホール 会議室3

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下七観音町634 TEL. 075-231-6351

司会進行：遠山 真理 とよま まり サイエンスコミュニケーター

1 開会挨拶

Hein Mallee ハイン マレー 副所長

2 講演会・セミナー・受賞などのお知らせ

オープンチームサイエンスプロジェクト 第1回全体会議

2018年5月17日(木)~18日(金) 10:00~17:00

総合地球環境学研究所

2018年4月より、地球研近藤康久准教授がリーダーをつとめる3年間のコアプロジェクト「環境社会課題のオープンチームサイエンスにおける情報非対称性の軽減」がスタートしました。このコアプロジェクトでは、さまざまな分野の研究者・実務家が知恵と力を合わせて、オープンチームサイエンスという新しい科学研究の方法論をつくっていきます。今回は第1回の全体会議にてプロジェクトの全体計画や、現場の問題理解などを共有します。

第77回地球研市民セミナー

“雨降って地固まる” – 気候変動と日本史の怖くて深い関係 –

2018年6月8日(金) 18:30~20:00

ハートピア京都 大会議室

講師：中塚 武 (総合地球環境学研究所・教授)

地球研市民セミナーは、地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において開催しています。

今回は、地球研プロジェクト「高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索」のリーダーを務める中塚武先生による5年間のプロジェクト成果を報告します。

雨降って地固まるとは、「雨が降って地面がぬかるんでも、乾くとむしろ固くなる」という昔からの体験

にもとづき、「ケンカした後は、より仲良くなる」という人間関係の機微を表したことわざです。しかし、大雨が降ったら、地面が固くなってみんな仲良くなるどころか、土砂崩れや洪水が起きて多くの人が不幸になりますよね。

樹木年輪による最新の古気候復元のデータからも、日本史に出てくる多くの争いごとが、水害の頻発に起因することが分かってきました。しかし、災害や戦乱の後には、しばしば世の中が変わります。正に地固まるときもあれば、更に泥んこになるときもありました。

講演では、「水害への対応」という今日の私たちにも身近なテーマが、いかに弥生時代から現在に至る日本史の展開を導いて来たのかについて、時代毎に具体例を示しながら紹介します。

「食と農の未来会議・京都」を作る会および FEAST 共催 こども食堂×オーガニック～みんなで創るよいごはん～

2018年6月10日（日）10:00～15:00

京都府庁旧本館 NPO パートナーシップセンター会議室

6月10日に京都府庁で開催される「こだわりマルシェ」にて、FEAST プロジェクトは「食と農の未来会議・京都」をつくる会と共催してセミナー付き食堂「こども食堂×オーガニック～みんなで創るよいごはん」を出店します。京都府で活動されているこども食堂と有機農産物の生産・流通に関わる有志が協力してつくる美味しいお弁当を食べながら、こどもを取り巻く環境、有機農産物の流通の現状を参加者に知ってもらうこと、そこから京都の食と農の未来を考えてもらうことが目標です。オーガニック中国茶の茶席でゆったりとした時間と一期一会を楽しむこともできます。

地球研一般公開 2018年度地球研オープンハウス

2018年7月27日（金）9:30～13:00

総合地球環境学研究所



地域の方々と交流を深めるために施設や研究内容を紹介する、年に一度の地球研一般公開です。2011年から開催しており、昨年は842名の方にお越しいただき大賑わいでした！クイズラリーやマイマス 30℃の実験室ツアーなど、楽しく親子で地球環境について理解を深めることができる企画をたくさん準備しています。

最近のトピックス（受賞）

奥田昇准教授の共著論文が Ecological Research 誌 第18回 Paper Award を受賞

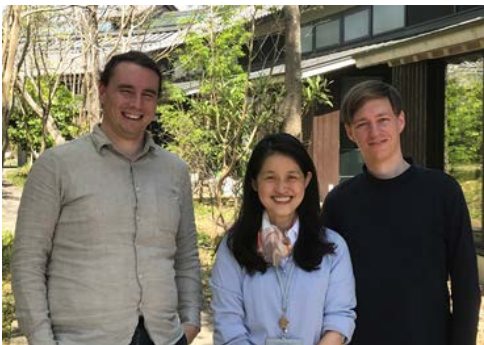
生態学系雑誌 Ecological Research において、地球研・奥田昇准教授および京大・伊藤雅之助教らの共著論文 "Integrating isotopic, microbial, and modeling approaches to understand methane dynamics in a frequently disturbed deep reservoir in Taiwan" が第18回 Paper Award に選ばれました。本賞は、Ecological Research 誌に掲載された論文のうち、毎年特に優れた5本が編集委員会によって選出されるもので、そのうちの1本として Ecological Research, vol.37, Issue 6 に掲載された当論文が選出されました。

〈概要と評価ポイント〉

熱帯・亜熱帯の湖沼は、強力な温室効果をもつメタンの自然発生源として知られるが、長期観測データに乏しいため、気候変動下における湖沼生態系のメタン動態は十分に理解が進んでいない。本研究プロジェクトは、2009年から台湾の翡翠水庫（台北市の水源池）で日台合同調査を進めている。熱帯・亜熱帯の深い湖沼は、湖水が循環しにくく、底層が酸欠するため、メタンの発生源となりやすい。しかし、表層から中層に十分な酸素があれば、微生物（メタン酸化細菌）の働きで水中のメタンが有機炭素に変換され、動物プランクトンの餌となりうる。つまり、メタンが大気に放出されず、湖沼生態系の中でリサイクルされることになる。このようなメタン循環の仕組みをメタン栄養食物網とよぶ。本研究は、長期観測データに基づいて、気候変動に対するメタン栄養食物網の応答を予測することを試みた。一連の研究成果は、熱帯・亜熱帯の湖沼のみならず、温暖化が進む我が国の湖沼生態系の将来を理解する上で有用な知見を提供するものである。

3 研究紹介（地球研の研究者が最新の研究成果を紹介します）

ミツバチと共に未来をつくる



左から、RUPPRECHT、真貝、SPIEGELBERG

マキシミリアン スピーゲルバーグ
Maximilian SPIEGELBERG

地球研「持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築

—食農体系の転換にむけて」研究員

クリストフル プレヒト
Christoph RUPPRECHT

地球研「持続可能な食の消費と生産を実現するライフワールドの構築

—食農体系の転換にむけて」研究員

しんかい りか
真貝 理香 地球研外来研究員

ミツバチは私たちに、ハチミツを与えてくれるだけではなく、多くの野菜や果物の受粉にも欠かせない生物です。私たちの食卓や生活は、ミツバチの恩恵を大きく受けていると言えます。一方で、日本においても、養蜂家の高齢化、蜜源植物の減少、農薬やダニによるミツバチの減少、受粉用ミツバチの不足など、様々な問題が起こっています。

そもそも日本では、養蜂家に関して、その意識や生活についてまで含めた大規模な社会調査例は少なく、養蜂家の実態そのものがつかめていないのが実情でした。我々は養蜂家 345 名へアンケート調査を実施し、さらに都市部・山間部の両地域の養蜂家にもインタビューを行い、養蜂家とミツバチが置かれている現況、問題、そして「可能性」についても探ってきました。また、京都市民約 750 名を対象に、「ハチミツ・養蜂・環境に関する意識」アンケートも実施しました。

その中で、最近注目されている都市養蜂や、大学など学校やコミュニティーにおける養蜂、個人の趣味養蜂は、ミツバチを通じた環境教育やコミュニティー作りにも有効であり、趣味養蜂は特に高齢者を中心に、広がりを見せていることが浮かびあがってきました。



都市養蜂（京都市中京区役所屋上 みつばちガーデン）

トイレと日本酒から人びとの営みを探る



はやし こうじ
林 耕次

地球研「サニテーション価値連鎖の提案—地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン」
研究員

私の専門は生態人類学で、これまでアフリカ熱帯（カメルーン共和国）の狩猟採集民バカ・ピグミーの生活習慣や文化などを研究の対象としてきました。サニテーションプロジェクトのメンバーとなり、新たな研究アプローチ、フィールド、共同研究者とのつながりが生まれましたが、新しい視点とカメルーンでの経験を結び合わせる試みとして、今後「人類史とサニテーション」というテーマでの展開を計画しています。これは、霊長類からヒト、ヒトの移動生活から定住化、その後の都市化という流れにおいて、トイレやサニテーションの問題がどのように関わってきたのかを追究しようという試みです。また現在、日本酒をとりまく風土や地球環境について考えるプロジェクトを地球研内の若手研究者と共に進めています。日本酒を単なる嗜好品としてではなく、日本酒の原材料から流通、消費に至るまでのプロセスや、それぞれのとりまく環境を含めた視座を研究の射程に入れていきます。

「サニテーション/トイレ」と「日本酒」というテーマ自体を結びつけるのは難しいですが、地球研の英名 Research Institute for Humanity and Nature における Humanity、すなわち私なりの解釈として「人びとの営み」を礎として研究にたずさわっています。



ゴミと生活排水にまみれた川（ザンビア ルサカ市内）

4 出版物その他

●地球研 要覧 2018



●地球研和文学術叢書



●ニューズレター

●刊行物・冊子



そのほか、会場にてご用意いたします。

地球研ホームページ <http://www.chikyu.ac.jp/>


最新論文やイベント告知・報告を随時掲載しています。

 <https://www.facebook.com/RIHN.official>  <https://twitter.com/CHIKYUKEN>

イベントのお知らせや研究会の様子など日々更新しています！

 <https://www.youtube.com/user/CHIKYUKENofficial>

過去に行ったイベントの動画や、不定期でシンポジウム等の同時配信を行っています！

 <http://www.chikyu.ac.jp/publicity/iTunesU.html>

過去に行ったイベントの動画やフィールドで撮影した動画、教育コンテンツなどをアップしています！



ゆるキャラグランプリ 2018 に地球犬くんが参戦します！

是非応援をよろしくお願いいたします。

懇談会についてのお問い合わせ



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature

広報室 遠山・北・木村

TEL: 075-707-2430 (直通)

FAX: 075-707-2106

E-mail: kikaku@chikyu.ac.jp